

# 第10回 諏訪赤十字病院 市民公開がん講演会 開催報告

2016/09/01 がん診療推進室

当院では、地域がん診療連携拠点病院事業として、平成20年より「市民公開がん講演会」を毎年開催。患者・市民に向けて、情報提供を積極的に行ってきました。記念すべき第10回を迎える今回は、「自分らしく生きるとは」のテーマのもと、3部構成で行いました。

## 第10回 諏訪赤十字病院 市民公開がん講演会

開催日:8月27日(土)13:00~15:30

会場:諏訪市文化センター

参加者:約400人

テーマ:自分らしく生きるとは

内容:◆人生の最終段階における医療体制整備事業報告

◆特別講演『死ぬことと、生きることは同じ』

金子稚子 氏

◆パネルディスカッション『自分らしく生きるとは』

金子稚子 氏、宮坂圭一 医師(宮坂医院)、片岡優子 医師(諏訪中央病院)、

遠藤俊江 看護師(岡谷市民病院)、藤森友章 医療ソーシャルワーカー(諏訪赤十字病院)



講演冒頭で「人前でお話をするようになったきっかけは、夫金子哲雄に頼まれた役割だから」と、金子さん。



「これまでの生き方では全く対応できないのが『死ぬ』ということ。自分で死の先を考えることは、生き方を変えることと同じ」と、語られました。



第1部、2部の進行は、当院泌尿器科部長の栗崎医師が務めました。



宮坂副院長より、26年度モデル事業実施医療機関としての当院の成果についてご報告。



第3部パネルディスカッションの司会は、丸山院長補佐が務めました。



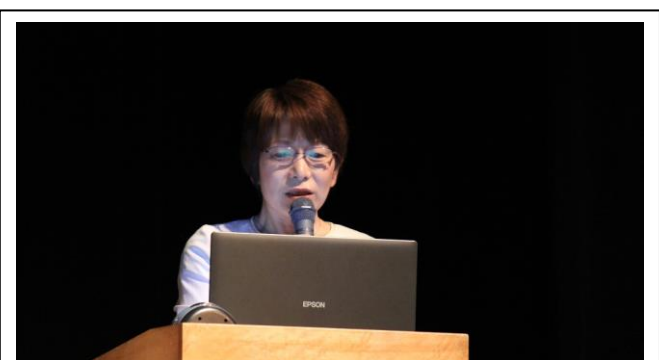
会場を埋めた400人の聴講者は、パネリストの思いに熱心に耳を傾けました。



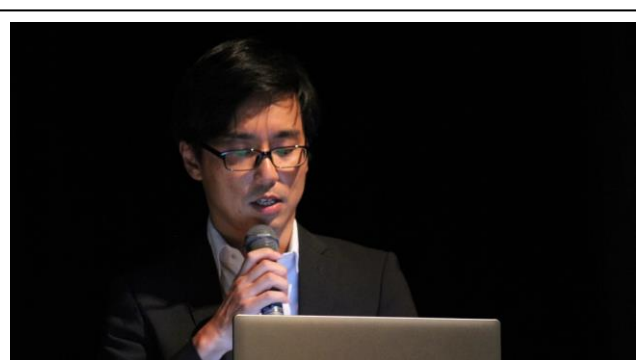
「看取りは本人、家族が納得し理解できるまでの過程が大事。そこで責任を感じる必要はない」と、宮坂医師。



片岡医師は、「もしもの時のために話し合う事、またその理由も共有しておくことが大事」と、語られました。



遠藤看護師は、「緩和ケア病棟看護師として、患者さんの“自分らしく生きる”を支えたい」と、述べられました。



「病気になっても元々持っているその方の役割が続けられることが『自分らしさ』に繋がるのでは」と、藤森MSW。



森林看護副部長から講師の金子稚子さんへ花束の贈呈。



梶川副院長より、本日の演者の皆さんへの謝辞が述べられました。

